

弓道なごの

第41号

発行：長野県弓道連盟
会長 土川俊市
〒399-6303
塩尻市奈良井611
TEL0264(34)3063
編集：県弓連広報部
印刷：(株)成進社印刷

巻頭言

心の置き所

長野県弓道連盟副会長

百瀬 正



弓を引く家に生まれて、三才の頃より弓を持ち六十年余りが経ちました。その間、先生方から射法、射技、指導者としての心得など多くを教えて頂きました。

中でも心に銘じております事は、昭和五十年に錬士に合格の時です。範士十段故松井政吉先生より、注意を受けた事です。錬士になったら射法、射技の修練は基より、弓道教本その他の本をよく読んで、弓道を確り勉強しなさい、文武両道を、座右の銘にしなさいと、叱咤された事は、今でも心の中に大切に残っております。

範士八段の父豊より、弓を引く時は、心を一つに置けと教わりました。二念を追う事なく、心を一つにし誠を尽くす、これが弓道である。弓道場に入ったのは神様である。道場内には的と自分しかいない、的を自分の胸に置き、弓道は己に勝つ事だ

と教えられてきました。

心を一つにするためには、『五澄心が大切である』、父の言葉です。射を育て射終わるまでに五度心を澄まして我が身を反省し、七情に捕

われて心身の乱れを来たす事なきよう考え、体勢氣力を静かに整えて射を進める事である。

一、矢を番えて立ち足踏み胴造りをなし弓を左膝頭に取り馬手を腰に納め弦調べをなし第一澄心をなす。

二、取懸け手の内を調え心を外に奪われないように第二澄心をなす。

三、其れより打起し大三の位置に於いて第三澄心をなす。

四、引き納めて押手勝手胴造り等の釣り合いを反省して第四澄心をなす。

五、矢を放つて矢飛び矢所を見定め一射の総決算として反省を加えつつ第五澄心を行うことが普通行われている方法であると、教えを受けてき



ました。それでも、毎日一射一射を心こめて修練しているつもりですが、審査会、競技会となると、道場内の雰囲気にもまれてしまい射損なう事がしばしばです。射損なう時は、後の動作を確実にやりなさいと、伯父の範士十段窪田真太郎先生より指導されました。射損ないはずありません。退場まで心を持って真を尽す、最後まで遣り遂げる事により、次にそれを生かす事が大切であると思えます。

平成十一年十月十七日、小笠原家の菩提寺龍雲山廣澤寺に於いて上棟式があり屋越之墓目の儀を行った。

前日に下見をし足場の組まれた高さ十七メートルの本堂を見、一間位の場所しか矢を射る所がない事を確



廣澤寺上棟式屋越之墓目

認し翌日に備えた。

当日は、快晴であるも風が強く、本堂は吹流し五色の旗などに飾られ六百人の善男善女が、見守る中弓を引き退胴になり本堂を見上げると吹流しが横に靡いており射ることが出来ない。心を一つにし、南無釈迦牟尼仏と唱えると、天から「今矢を放て」と、お釈迦様の声、目には吹流しが垂れ下がり、放された矢はひゅーと快音をたてて本堂を越える

と大喚声と拍手がわいた。寺の大事業を無事成し遂げ、改めて父の教え、心を一つに置けの大切さを実感し弓倒しをしました。

写真は廣澤寺です。

平成二十四年度の新たな取組み

総務部長 丸山 泰利



新体制になつての初年度、各支部の支部長様始め会員の皆様には多大なご支援とご協力を

をいただき誠に有難うございました。また、土川会長始め県弓連役員の先生方にも色々のご指導・ご助言を賜り厚く御礼申し上げます。

お陰様で総務部主管の県弓連行事、そして五年毎に回つて来る北信越弓道連合会の当番県としての行事等、よちよち歩きながらも何とか消化することが出来ました。これもひとえに関係皆様方のお陰と深く感謝し、重ねて厚く御礼申し上げる次第でございます。

しかし、課題・反省点も沢山あります。これらを改善するとともに平成二十四年度がさらなる飛躍の年になります様、新たな取組みをいくつかご紹介させていただきます。

(一) 優秀支部の表彰について

平成二十四年度から県弓連が指定する大会等において一年間最も活躍した支部を表彰することにいたしました。

次に掲げる大会等の成績に応じて予め決められた点数を付与し、その年間合計点数が最も高い支部を優秀支部として表彰状を贈り表彰いたします。

○長野県選手権大会(近的・遠的)
○長野県支部対抗競技会

○ねんりんピック県予選会

○全日本選手権大会(近的・遠的)

○昇格(教・錬士)昇段(八・七・六段)

○国体選手派遣

(二)ねんりんピック県予選会について
従来県予選会は十月上旬に開催していましたが、全国大会は翌年十月中旬のため、この選手決定から全国大会出場までに一年以上あり、代表選手の体調の維持・管理が困難な状況でした。これを改善するため、平成二十四年度から県予選会を全国大会と同年の五月に開催することに

いたしました。

(三) 信越講習会について

信越講習会は、今まで年一回開催していましたが、年々受講者が増加傾向にありきめ細かな密度の高い講習が出来なくなることが危惧される様になって来ました。このため、平成二十四年度から四・五段の部と称号者の部の二つに分け、同時に二会場(新潟県・長野県)で開催することといたしました。なお、称号者の部は教士六段までを対象とすることにいたします。

(四)以上のほか旅費支給規程の一部改訂も行う予定をしていますが、これ

を含めいずれも三月に開催されます「平成二十四年度評議員会」でご審議していただくことになっております。結果を含め細部は、「平成二十四年度県弓連事業計画書」をご覧ください。

さて、もとより浅学非才の身でありながら無謀にも総務部長の任をお引き受けし一年間どうにかやって来られたのも総務部員皆さんの助けと支えがあったからこそであります。ただただ残念なのは、会計の井垣貴夫先生が志半ばで去られたことは痛恨の極みであります。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成二十四年度にむけて

指導部長 宮坂 博之



いろいろな困惑と、混乱と・・・皆さんにご迷惑をお掛けしながら部員一同力を合わせて

せ、二十三年度を頑張つてまいりました。前年度山川会長、土川指導部

長の計画して頂いた行事を色々教わりながら一つずつ終わりにしていくだけで精一杯でした。一年間が駆け足で過ぎて行きました。今まで受講生で出席していた講習会でしたが、それを運営していくと言うことは、大変なことであると部員一同、改めて認識する一年でした。

会員の講習会への声を聴きたいと、少しでしたがアンケートも取ら

せていただきました。しかしその声は大きく、とても考えさせられるものばかりでした。皆さんの声を色々な形で、これからの講習会に反映できればと思います。

本年度もすでに講習会が始まり、次々に行事が押してまいります。春から春季講習会・女子称号者講習会・新設された事前講習会講師講習会・中級者講習会、初夏の女子講習会・教士研修会、梅雨が明ければ伝達上級・中級、夏のヤングセミナー残暑の錬士研修会・秋季講習会、そして晩秋二回の中級者講習会を行います。間に全日本選手権に向けての選手強化も行います。競技部からの予選選抜メンバーに加え、少し先を見て次の世代を育てるべく若い世代を加え強化研修会を行ってまいります。

指導部にいると、県下をあちこち歩くせいでしょうか「長野の弓」が色々と見えてきます。地域の温度差も感じてきます。勿論色々な人の色々な弓があつていいと思います。地区の弓道人口の多い少ないに関わらず、弓士の悩む声が聞こえて来ます。指導部は長野県の弓を平準化すると言うものではないと思っております。弓道の高見を目指し、少しでも深く、

少しでも前に、と言う弓士に平等でありたいと思っております。二十四年度は、県下を広く使い皆様のお役にたてます様、部員一同歩

平成二十三年度を振り返って

競技部長 奥山 誠治



お蔭様で平成二十三年度の競技部事業計画実施も会長、副会長

始め各支部長さん、支

部の皆さん、部員の皆さんの御協力により六事業を混乱なく(小さな問題点は事業部会反省で指摘あり。)実施され競技部長としてはまずホッと致しました。

昨年十二月十一日塩尻での事業部会の反省内容を生かして平成二十四年度は更に充実した競技会を目指していきたいと思っております。その為にも年度のスタートを前に会長、副会長を講師に研修会を開き運営上の問題点等、また前年度の反省にあら

いてまいります。どうぞお力添えに加えご指導ご鞭撻、ご意見ご要望をお寄せ頂けます様、宜しくお願いたします。

した点などを検証し、繰り返し同様の失敗などなき様務めて行きたいと思っております。

新年度の事業も間もなく動き出します。参加出場を予定されている選手が皆さんが競技に集中し、日頃の実力を発揮出来る様運営、お手伝いをしていかなければなりません。それにつけても関係支部の皆さんの御協力が不可欠です。競技会も大勢の会員の皆様の参加をお待ちしております。それぞれ目標は違うと思いますが上位入賞を目指し努力致します。次なるステップが見えて来る事と思っております。

改めて今年一年宜しくお願い致します。

弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場

近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)
12人立2ヶ所
遠的道場 1ヶ所

帝産ロッヂ

〒384-1305

長野県南佐久郡南牧村野辺山 1003

HP : <http://www.teisanlodge.com/>

ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

平成二十四年度にむけて

審査部長 押金 孝



平成二十三年度審査部長を務めさせていただき、不安と共にスタートしましたが、会

長をはじめ各副会長、事務局、各支部長、運営委員の皆様等大勢の関係各位のご指導とご協力のもと、お陰さまで当初計画通り審査部事業が無事終了しました事を、厚く御礼申し上げます。

平成二十三年度を振り返りますと四段以下審査会十三回実施し、年間受審者数は、のべ二四九九名でした。中高生受審者数は二一七五名その中で中学生の受審者は、のべ四十名で県弓連登録者数は一団体三十二名、支部所属十三名の計四十五名です。全受審者の八七%が中高生でした。大学生等の受審者は、のべ百十九名 約五%。

一般のべ受審者は二〇五名八%でした。中学校における二十四年度からの武道必修化スタートに伴い、中学生の弓道人口増加も期待される所です。

二十四年度も昨年同様に審査会を十三回実施致します。

詳細については、平成二十四年度事業計画書にて確認をお願い致します。

また、今年度は審査申込書の様式切りかえ年度です。

二十四年度は従来の審査申込書、新しい審査申込書のどちらでも使用できます。

二十四年度も受審者の皆様が、審査に集中できる様、更に審査部一同がんばります。

昨年度は、審査を見合わせていた皆さんも今年度は弓友を誘い審査に挑戦してみませんか？

関係各位には二十四年度も、昨年度同様のご指導、ご協力をお願い致します。

二十四年度にむけて

強化部長 新津 一夫



強化部を担当して一年が過ぎて、67回岐阜団体に向けて、成年・少年男女の予選を終え、強

化練習が始まっている。

二十三年度は振り返れば、役員改選で、強化部も担当副会長共々私も初めてであり、どのように強化練習をしていいのかも解らず、経験の無さで、会長・副会長・強化部員及び選手又道場を使用させていただいた支部の方々に迷惑をかけてしまい申し訳なく思っています。そんな中で部員・選手は一生懸命に、私は手探り状態で強化練習をして来た。練習のペース、又どのよう強化をしてよいのやら手探りであった。心の支えになったのは、成年男女が経験豊富な選手に恵まれた事で、ほんとうに幸運であったと思いい感謝している。強い成年男女を目標にして少年男女もほんとうに頑張ってくれたと今でも思っている。

話はそれるが弓道で指導する事は非常に難しいと実感している。ほんの小さな事でも直すには時間がかかる。特に少年達は半年間で本番を迎える。直した事による迷いは致命的になりかねない。他のスポーツでは無心になれる事が多いが、弓道では無心になる事は非常に難しいと思う(相手がいないから)。最近集中力は注意力と誤っている。離れまで自分に対して各所に注意を払う事が大切に思う。話が自分自身でしまったが国体選手である事は非常に難しい。一生懸命練習するから少しづつづれるのがわかりにくい。県の代表であるプレッシャー、代表になるまでは必死に頑張るが、選手になると守りに入ってしまう事が自分の経験でもあり、これはまずい。上手く言えないが弓道選手としてメンタル面の強さが必要に思う。

二十四年度は、試行錯誤の繰り返しになるかもしれないが、4種別とも67回岐阜国体目指して北信越国体に向け頑張りたい。

最後に前強化部員の井垣先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

今年度のジュニア部

ジュニア部長 山田 雅亮



平成二十三年度のジュニア部の活動におきましては、会員皆さまのご支援ご指導を賜りまして、無事に終了することができました。心より感謝申し上げます。

中学生大会では、県予選会での男子参加選手の増加、全国大会女子個人での瀧澤選手（長野日大中学）の6位入賞という成果を上げることができました。又、高校選抜大会では、北信越ブロック代表戦男子団体での松商学園高校2位入賞、そして全国選抜大会出場獲得という健闘を見せてくれました。長野県全体の実力が益々向上し、全国で活躍するレベルの選手が大勢生まれることが期待されると思います。

平成二十四年度は、ジュニア部の行事が例年と変わります。選抜大会につきましましては、全国大会が十二

月開催となりますので、県予選会の実施が困難な状況です。高体連の県新人大会の結果を参考にして参加校を決定する予定です。中学生大会は、六月末に県予選会を開催いたします。更なる参加選手の増加を期待して、広報活動にも心がけていきたいと思っております。そして、全国高校総体弓道競技会が、八月一日〜四日の日程で、松本市総合体育館特設射場で開催されます。高体連の先生方だけでなく、県弓連の先生方や会員の皆さま方のご支援ご協力をお願いし、選手や監督だけでなく、大会に関わった全ての方々に思い出深い大会となるように努めたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

日頃の稽古や各大会を通じて、中学生や高校生の弓道が益々活性化し、優れた成果が得られますよう、皆様方のご指導を頂戴いただけましたようをお願い申し上げます。

反省、そして二十四年度に向けて

広報部長 杉田 博



た。

昨年四月に広報部に引き継いではや一年。とにかくすべきことをこなすのに精一杯でした。

広報部の主な仕事は年四回の『弓道なごの』の発行・HPの管理・『弓道』誌への寄稿。それぞれの仕事を部員のみなさんに分担、責任を明確にする一方、お互いに助け合い助けてもらいながら、何とか無事終了することができました。また会員の皆様には平日頃多大なご協力をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

二十四年度も陣容は変わらず、仕事も大きな変化はありませんので、それらの内容をいかに充実させていくかが、カギになると思います。細かく見ていきますと、『弓道』誌の【ちれん発インフォメーション】

は四月から版が大きくなるのに従い、字数が約百字強増えますので、より多くの情報発信ができるようになります。毎月情報を集め原稿を書く担当者は益々大変ですが、長野県弓道連盟のアピールに頑張ってもらいたいと思っております。

HPの【各地の大会結果】も昨年一部報告がなく掲載できなかったものがありますので、本年度は事業計画書に掲載された大会はすべて結果報告をいただけますよう、お願いいたします。

『弓道なごの』は内容の充実と正確さを追及していきたいと思っております。会員の皆様の投稿は大歓迎ですのでぜひご連絡いただきたいと思います。

尚発行日を各五日から十日に変更いたしました。

講習会報告

指導力向上指導者講習会に参加して

佐久支部 山浦博

今期最強という寒波が日本列島を覆った二月四日・五日、標記の講習会に諏訪支部の宮坂先生と共に参加しました。「厳格なる講習会とし、指導者として自覚を求め、かつ理想像を確立すること」など十六項目に及ぶ受講心得がそれに先立ち全弓連より送られてきました。以前にも講習会の経験は多々ありましたが、この時程緊張感がみなぎった経験は過去にありませんでした。

さて、講習会初日、博多の朝は寒波の影響もあり大変な冷え込みで身体の芯まで凍える様でした。受付を済ませ集合、準備運動の後開講式、鈴木三成会長、吉本清信副会長、高橋範主任講師、秋山照美、林文夫、中塚祥一郎、佐竹万里子各講師、受講者六十二名で肅々とセレモニーが進行、主任講師の矢渡し、他の講師による特別演武が終り我々受講生の一手行射が始まる頃には身体が冷え切り震え出す始末。又、行射進行の途

中、張り詰めた緊張と寒さで何時もなく疲労感を伴い私は既に日程の後半の様な錯覚に陥っていました。不図我に返るとまだ昼前。昼食休憩の後場所を移し高橋主任講師の「指導者の心構えについて」と題する講話があり、指導者としての心構え、姿勢をメインに、鈴木会長及び故魚住範士の話なども織り交ぜながら筆舌に尽くし難い貴重な話を聞く事が出来ました。又、講話の終りには会長より一手行射に関わる個別の批評が有り受講生にとってこれからの稽古の励みになると共に確固たる努力目標にもなりました。その後道場に戻り近的射場(六段)遠的射場(七段)の二班に別れ基本体の演習になりました。我々近的射場では基本体全般を一通り確認の後、殊に弓構えにも影響のある執弓の姿勢を講師指導の許重点的に相互研修を重ねました。その後の十個掛け五名の講師が其々の二個を担当され射技研修に入りました。私

は佐竹、中塚両講師の指導を受け初日の日程を終了しました。冷えた身体で宿に帰り、翌日の天気予報を確認すると、寒波は去り気温は平年並に戻り、明日は多少暖かく感じられるとの報道に安堵し床に入りました。しかし、翌朝風は無かったものの雲が厚く垂れ籠め前日より肌寒く感じ重い気分が会場へ向かいました。秋山講師の矢渡し、一つの特別演武に続き吉本副会長、高橋主任講師による介添えの講話、解説があり、続いて「仲間作り」と題した会長の特別講話が終ると講習会もいよいよ終盤、射技研修にも熱が入って



来ました。全講師の指導を受け感じた事は、厳しい中にも先生方の情熱と大意即妙な話術に引き込まれ大変得る事の多い有意義な研修だったと今感謝の念で一杯です。又、弓道に関して様々な問題意識を持ち、探究心を忘れない事が大切であると同時に、弓道の本質と射術のあるべき姿を見つめる客観性と感性が必要である事をこの受講を通して痛感しました。

最後に一手行射による検定試験、閉講式で修了証書を授与され、午後三時に終了予定を三十分オーバーして閉講となりました。今回の講習会に参加できた事に心より感謝致します。



弓仲間紹介

豊丘村弓道場

飯伊支部 平澤 敏弘

私が豊丘村弓道部に入会したのは、今から三年前の平成二十一年二月です。高校・大学では、学生弓道一筋で、自分の正しい弓道、勝つための弓を追求してきましたが、一般の弓道(道場)は全く知らず、当時は敷居の高い存在でした。しかし今では、飯伊支部や豊丘道場で多くの仲間と弓道を楽しみ、日々精進しています。

豊丘村弓道場は、高段位の先生がいらない為、各個人で工夫し、技術を磨く練習スタイルとなっています。仕事帰りや、休日の空いた時間に練習をしています。時には飯田市営弓道場へ習いに行くこともあります。基本的には自由でのびのびと練習をしています。道場は河岸段丘の中央アルプスを臨む高台にあります。片側を山とお寺に囲まれた小さな道場ですが、静かでも練習し易い環境です。

現在、活動している部員は十

数名と少数ですが、中学生から高齢者まで幅広い年齢層です。その中には国体、全日本選手権、ねんりんピックの出場者など第一線で活躍する仲間も多く、共に切磋琢磨しています。また、飯伊地区の大会では、「打倒豊丘！」という声も聞かれ、飯伊支部のレベルアップとしての一端も担っている道場です。

毎年、豊丘弓道場が主催する新年射会(一月)と藤射会(五月)では、恒例となっている豊丘道場特製の豚汁で参加者を持成し、地域の弓士が交流を深める場となつていきます。

豊丘村弓道場は少ない人数ではありますが、ここから飯伊支部に止まらず、長野県や全国で活躍する弓士を多く輩出し、弓道会に貢献できる道場となる事を願っています。



私と弓道

上小支部 丸子弓道会 五段 長岡 昌

私は、高校生のときに弓道と出会い、今年で弓道歴八年目になります。弓道部を選んだ理由は、弓を引いている姿が格好良く見えたからという単純なものでしたが、練習を続けるうちに徐々に夢中になり、ほぼ毎日弓を引いていました。しばらく弓道から遠ざかっていましたが、実家の近くに道場があったことから再び弓道を始めました。仕事の関係で、普段は地元から離れた地域で生活しており、弓道会の行事に参加できないことも多いですが、私が道場に顔を出した際には、先生方や道場生の皆様が暖かく迎えてくださり、ご指導を頂くことができ、大変感謝しております。

そのような恵まれた環境の中で、稽古を積んだおかげで順調に昇段することができ、昨年は錬士の審査を受けるに至りました。初めての錬士審査は非常に緊張し、余計な力も入ってしまった。今年は、前



回の反省をふまえて、満足いく射、基本に則った射ができるように細かいところにも意識をして稽古を積んでいきたいと思っています。

また、今年はこれまで以上に大会に参加しようと考えています。大会は、勝敗だけでなく、普段は会えない他道場の方とも知り合うことができることも楽しみの一つだと思っています。何度か大会に参加する中で、顔や名前を覚えていただき、幅広い世代の方と知り合うことができ、時にはチームを組み協力し合い時には競い合うというのも楽しいものです。様々な大会で、皆様とご一緒に楽しく弓を引くことができればと思っております。

御三方健在なり!!

長野運動公園弓道クラブ 小池 梨枝子



我が道場には、我等が誇りとする三人の範士先生方がおられる。云わずと知れた高名な御三方であり、長野県のみならず全国各地で活躍なされた面々である。我々皆、どれほどお世話になり御指導を賜って来たか計り知れるものではない。生き方考え方の果てまで頼らせて頂いて来た。

その先生方も齢を重ね今年中にはそれぞれ三月に宮澤廣先生八十六歳、十月には大久保秀雄先生が誠に目出度く九十歳！そして小林義行先生は十一月に八十四歳となられる。しかしながら世で言うところの年齢とは大いに異なり、行射しかりご指導しかりの矍鑠たる方々である。ひとつの道場にこれほどの範士先生が三人もいらっしやるのは全国でも類を見ないのではなからうか。

クラブ主催の射会では御三方による射礼をご披露いただいているが、お若い頃のような体配とはいわなくとも見る者を感動させ得る、大いなる気迫をいつもピンピン発散させておられる。長い人生を歩んで来られた歴史そのものが、心身弓となつて醸し出されるえも言われぬ何かを生み出すのだろうか。我々も後に続けとばかり懸命にその後姿を追いかけてはいるもの、とても叶うものではない。

そのクラブも先生方が始めから基盤を築き上げて下さったものであり現在創立三十二周年。会員数百五十名余り、内、称号者は三十名を数える程に育て上げて頂いた。平成十九年度には武道優良団体として全国表彰された実績もある。

毎週午前と夜間の二部制としてそれぞれに集まり、火曜日には相互研修、木曜日には各先生方のご指導を仰いで勉強している。内容は射技・体配・学科等と多岐にわたり実に有意義な時間である。これも偏に先生方がこれまで培って来られたご精進の蓄積に加え、全国を講習会講師また審査員として廻つていらした貴重な体験が物を言っているであろう。その恩恵にあずかれる我々は、本当に幸せ者である。

先生方には今後とも、クラブだけでなく長野県全体の発展にご助力いただき、弓士皆々の素晴らしきお手本となつてご活躍くださるよう切に願いたい。そしていつまでもお達者で道場にお越しいただき、我々と一緒になつて弓道に携わっていかれるよう、心より祈る次第である。



大会結果

団体一次選考会

▲成年の部

○平成23年12月4日(日)

塩尻市弓道場

■1次選考会通過者■

(成年男子)

清水伸浩(諏訪)・平岩真吾(飯伊)・志村仁

(諏訪)・松井幸彦(安曇)・丸山恒治(安曇)・

市川隆光(諏訪)・吉澤忠秀(諏訪)・中村宏

(諏訪)・佐藤忍(上小)・平澤敏弘(飯伊)・安

藤直貴(須高)

(成年女子)

武田礼子(中高)・宮島さおり(長野)・井原寿

恵(飯伊)・宮澤久美子(長野)・滝澤和枝(安

曇)・丸山真弓(安曇)・山田静香(上伊那)・水

田明美(上伊那)・高地美佐子(上小)・武田歩

美(上伊那)・中村薫(諏訪)・原深雪(諏訪)

▲少年の部

○東信 平成24年1月28日(土)

上田城跡公園弓道場

(男子)

油井克佳(小海)・白田岳大(野沢北)・竹前

優作(野沢北)・相場哲学(北佐久農)・宮沢大

地(岩村田)・岩垂優一(上田千曲)・近藤卓弥

(上田千曲)・花見美洋(上田千曲)・黒岩看人

(上田千曲)・市村吉希(小諸)

(女子)

美斉津由佳(上田東)・児玉真希(丸子修学)・

湯本美幸(丸子修学)・菊原舞(野沢南)・小山

珠旺(上田)・高橋紗江(小諸商業)・西村みく

(小諸)

○北信 平成24年1月29日(日)

長野運動公園弓道場

(男子)

宮澤大(長野日大)・大宮樹(長野日大)・中村

誠人(長野日大)・和田知大(長野日大)・宮哥

駿太郎(長野高専)・永井健太(長野工業)・保

木野克海(屋代)

(女子)

松山加奈(中野西)・小林美南(中野西)・宮

崎莉緒(市立長野)・東恵美(市立長野)・鈴木

優衣(須坂東)・畑田京子(長野東)・小池優佳

(長野日大)・高梨遙(長野高専)

○南信 平成24年2月4日(土)

駒ヶ根市弓道場

(男子)

伊藤智徳(飯田)・山岸史哉(伊那弥生)・吉

澤純太郎(伊那弥生)・原雅幸(伊那弥生)・有

賀俊裕(伊那弥生)・原将太(赤穂)・田端光紹

(飯田風越)・新村直也(赤穂)・大沢雅(下伊

那農)

(女子)

関真梨奈(諏訪実業)・鈴木祐美子(松川)・坂

井祥子(伊那西)・下平実季(伊那西)・金子実

央(飯田)・澤村莉香子(伊那弥生)・田口彩香

(飯田風越)・田畑加奈(赤穂)・大前侑未(赤

穂)・岩村悠里(下伊那農)・松村茜(下伊那農)

○中信 平成24年2月5日(日)

松本市弓道場

(男子)

内木航平(田川)・野村源太(大町)・宮原駿

(美須ヶヶ丘)・佐藤祐一郎(美須ヶヶ丘)・片

桐拓人(美須ヶヶ丘)・小林遙太(美須ヶヶ

丘)・岩間暁之(美須ヶヶ丘)

(女子)

相原加奈(田川)・小川理沙(田川)・川崎輝帆

(美須ヶヶ丘)・山岸菜奈実(美須ヶヶ丘)・岡

本怜子(諏訪二葉)・小林もと(諏訪二葉)・松

澤明日美(諏訪二葉)・横川みちる(蟻ヶ崎)

倉田佳苗(県ヶ丘)・市川真愛(深志)・菅漢子(深志)

第8回中日本高等学校弓道大会

○平成23年12月24(26日)

トーナメント制 男子

2位 赤穂

総的中制 男子

5位 赤穂

第12回全国弓道遠征大会 新成人記念大会

○平成24年1月7日(土)

全日本弓道連盟中央道場

▲新成人男子の部

2位 森田紳太郎(信州大)

4位 細田剛寛(信州大)

▲新成人女子の部

3位 梅田祐衣(信州大)

▲一般男子の部

1位 志村仁(諏訪支部)

飯島町弓友会第30回百射会

○平成24年2月11日(土)・祝

飯島町弓道場

参加者 19名

1位 中村宏(諏訪支部)

2位 小松徹朗(上伊那支部)

3位 市川隆光(諏訪支部)

4位 野澤和樹(諏訪支部)

5位 亀岡英司(南佐久支部)

中野冬季百射会

○平成24年2月12日(日)

中野市営弓道場

参加者 47名

1位 大島勝巳(新潟 魚沼)

2位 宮川繁(新潟 小千谷)

3位 江田浩二(新潟 小千谷)

4位 手塚信幸(上小) 63中

5位 麻田順道(新潟 小千谷) 63中

第20回駒ヶ根市体育協会弓道百射会

○平成24年2月19日(日)

駒ヶ根市弓道場

参加者 22名

1位 小沢剛志(駒ヶ根市)

2位 藤澤敏子(飯田市)

3位 柴種徳(伊那市)

4位 湯沢幸司(駒ヶ根市)

5位 中村健二(飯田市)

御奉射大会

○3月17日(土)

穂高神社弓道場

参加者 高校222名、一般65名、

計287名

▲高校団体

1位 松商学園E(上澤にいな、

横山芽衣、小林なるみ)

2位 松商学園A(富岡大輔、

勝家優太、浦塚雅史)

3位 美須ヶヶ男子A(三澤一輝、

本林郁未、堀内直輝)

▲高校個人

1位 内木航平(田川A)

2位 上島優輝(岡谷南B)

3位 堀内直輝(美須ヶヶ男子A)

4位 市村阿子(田川F)

5位 松原祐太(志学館B)

▲一般団体

1位 大町いろは(竹山巖、

竹山晴美、西澤徹)

2位 巻藁範士(高木涼子、

土屋満電子、阿部緑)

3位 中野土びな(武田礼子、

宮島さおり、郷道隆志)

第27回塩尻市弓道大会

平成24年3月18日(日)

塩尻市弓道場

参加人数 一般21名、高校生282名、中学生3名、計306名

▲一般個人

- 1位 西澤徹(大町いろは) 6中
- 2位 高木涼子(巻藁範士) 5中
- 3位 横川善一(豊科Y) 5中
- 4位 宮島さおり(中野土びな) 5中
- 5位 上條誠(豊科K) 5中

▲団体の部

- 1位 美須々男子B(三澤一輝、小林洋樹、矢田智慎)
- 2位 豊科高校スペシャル(塚越みづき、横山拓也、遠藤慎太郎)
- 3位 松商学園A(富岡大輔、勝家優太、浦塚雅史)

▲個人の部

- 1位 浦塚雅史(松商学園A)
- 2位 富岡大輔(松商学園A)
- 3位 中山雅之(大町A)
- 4位 三澤一輝(美須々男子B)
- 5位 望月 力(美須々男子A)

昇段昇格者

定期中央審査(名古屋)

平成24年2月12日

- 春原由美子(上小支部)
- 小山 澄雄(飯山支部)

錬士号取得特別講習会

平成24年2月18日、19日

- 小坂末治郎(小諸支部)
- 深澤 累榮(安曇支部)

表彰

上田市教育文化スポーツ部門

功勞表彰 上田市弓道協会 清水克也先生



このほど清水克也先生は、平成二十三年十一月に上田市母袋創一市長より上田市教育文化スポーツ部門

で功勞表彰を受けられました。清水先生は、上田市弓道協会会長を六年間、長野県弓道連盟副会長を五年間務められました。

又上田市体育協会の理事に就任されて現在は上田市体育協会総務専門委員長として活躍をされています。

以上の功績が評価されての表彰となつたと思います。

清水先生は、その人柄は温厚で特に弓道に於いてはその指導力はすばらしさがあります。

又弓道を志す若い人の心を育ててくれる大切な存在の人と思います。

現在も尚上田染谷丘高等学校弓道部等も指導されて活躍されておられます。これからも、健康には十分に留意され益々のご活躍をお祈り申し上げます。受賞おめでとうございました。

(鷹野良信)

平成23年度長野県スポーツ振興功績者表彰

平成24年3月27日 長野県体育協会

▽有功賞

- 長野県弓道連盟推薦 降旗 昭雄(諏訪支部)
- 長野県高等学校体育連盟推薦

県弓連人事

長野県弓道連盟常任理事の交代について

長野県弓道連盟常任理事(総務部会計)井垣貴夫氏の死去に伴い、後任に安曇支部の竹岡幸彦氏を兼任期間、会長推薦の理事(総務部会計)として選任する。

平成24年3月25日 報告

長野県弓道連盟 会長 土川 俊市

お悔やみ申し上げます(敬称略)

- 式段 飯伊支部 竹村光則(63歳) 平成23年12月21日(水)ご逝去
- 教士八段 元副会長 大北支部 平林久男(92歳) 平成24年1月4日(水)ご逝去
- 教士六段 元副会長 上伊那支部 彈塚 寛(89歳) 平成24年2月4日(土)ご逝去
- 教士六段 常任理事 松本支部 井垣貴夫(59歳) 平成24年2月4日(土)ご逝去
- 教士七段 元副会長 南佐久支部 日暮千曲(87歳) 平成24年3月21日(水)ご逝去
- 四段 上伊那支部 春日成人(85歳) 平成24年3月22日(木)ご逝去

コラム

技術の進歩で新しい材料が次々と発明されている。この新材料は弓界にも応用され、現在ではカーボン、FRP、ケブラーなどが普通に使われている。

- 1. 弾く力の向上
- 2. 内部ロスの低減
- 3. 破断し難くなること
- 4. 素材が軽くなること

信大繊維の先生による和弓の弦の素材について検討した論文がある。それにはケブラー等の「合成弦」は矢を飛ばす上では高性能だが、離れの後の弓の振動吸収という点では「麻弦」にはかなわないとあった。

離れの後の弓の振動は弦がその一部を吸収し、材料による吸収量の差は射手の引き心地に影響を与えるほど違いがあるようだ。これは前述のような単純に材料の高性能化のみ行っただけでは出てこない特徴であり、弓具材料の高性能化とは何なのかと考えさせられる内容だ。

新しい物、技術にはつい目が行ってしまいが、昔から使われ続けている物には思いもよらない特性があり、深く感心させられる。

上伊那支部 手塚信一郎

【お詫び】

第40号に誤記がありましたので訂正しますと共に、お詫び申し上げます。

○12頁、特別臨時中央審査 誤「坂下 哲也」→正「下坂 哲也」